

《外用薬の種類と使い方 その2》

●点耳薬：耳の中に垂らす薬です。耳の中の疾患（中耳炎、外耳炎など）に使用します。

液状の薬を、耳の穴の中に滴下して使用します。

点眼薬と同様に、使用する前には手をよく洗って下さい。

滴下する耳の穴を上に向けた状態で横になり、指示された量の薬を滴下して下さい。

薬がすぐに浸透するわけではないので、しばらく横になった状態を保ちます。この作業を耳浴といいます。



冷たい薬液をそのまま使ってしまうとめまいが生じる可能性もあるので、なるべく体温に近い状態にして行う必要があります。ご自分で行うのが難しければ、身の回りの方に手助けしてもらおうとよいでしょう。

●貼付薬：皮膚に直接貼る薬です。体の痛みや咳の軽減など、様々な目的で使用します。



肩こりや腰痛などに使う消炎鎮痛作用のある湿布薬が代表的です。

その他にも、喘息発作の予防に使う気管支拡張薬や、最近では認知症への薬などにも貼付薬タイプのものが使われています。

薬の成分が皮膚から吸収され効果を発揮しますが、各薬剤によって薬の成分の放出される速度や持続時間が異なるため、使用回数（貼り替えのタイミング）が異なります。

皮膚が敏感な方や汗をかきやすい季節では、薬を貼った部分がかぶれてしまうこともあります。痒みを感じた場合は、早めに剥がして適切な対応を取る必要があります。

●塗布薬：皮膚や粘膜に直接塗る薬です。主に皮膚の疾患に使用します。



かゆみや発疹がある部位に塗り、症状を緩和します。

塗布薬の中には様々な剤形（軟膏、クリーム剤、ローション剤）があり、使用用途や使用部位により使い分けられます。

皮膚疾患によく使われるステロイド剤には、薬の種類によって効果に強弱がある為、むやみに他の部位へ使用することは避けなければなりません。

軟膏やクリーム剤はチューブに入ったものが多く、薬が汚染されないように容器の先端は清潔に保つようにして下さい。患部に塗る際には、容器を患部に付着させず、必要な量を取って塗るようにしましょう。